

平成29年度 環境教育の取組例

三重県教育委員会

【取組例：小学校】

学 校 名	取 組 内 容
<p>亀山市立 亀山西 小学校</p>	<p>○牛乳パックによるリサイクル工作（1年生）</p> <p>6月9日、牛乳パック・割りばし・ペットボトルキャップ・洗濯ばさみ・輪ゴム・アルミホイルを使って、玉の発射台と的を作った。作ったおもちゃを友だちと交換しながら遊んだ。</p> <p>毎日給食で飲んでいる牛乳パックに工夫をすると、面白いおもちゃになることに、児童たちは驚いた様子だった。牛乳パックを使ったので切りやすく、クーピーで的の絵も描きやすかった。思い思いの的の絵を描き、友だちと交流しながら楽しそうに遊ぶ姿が見られた。活動を通して友達同士関わることができた。これからも、使い終わったものにも、工夫次第で様々な使い道があることを知り、ものを大切に使用して欲しい。</p> <p>○里山公園で自然のことにについて学習をしよう（2年生）</p> <div data-bbox="368 1032 882 1368" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">（里道を歩く様子）</p> <p>6月12日、里山公園「みちくさ」で、環境保全室の方から「里山は人が守っていること」や「外来種の動物を飼う時は最後まで飼わないと自然をこわすことになること」を教わった。クイズや模造紙掲示もあり、わかりやすい内容だった。「みちくさ」までは椋川沿いの里道を歩くことで、川や水田の動植物についても見聞きでき、「みちくさ」での学習の導入にもなった。里道と車道を比較することでそれぞれの特色もわかった。</p> <p>里山は人が守っていることについて初めて知った子どもたちが多く、自然クイズをととても楽しんでた。ザリガニ釣りでは、煮干しをひもに結ぶのが難しかったり、ザリガニを釣るコツをなかなかつかめなかったりしたが、楽しむことができた。学習を通して、日常生活でほとんど意識できていなかった、里山の自然のおもしろさに気づくことができた。特に、「里山は人が守っていかないと荒れてしまう」「今、里山があるのは、誰かが守ってくれているから」と</p> <div data-bbox="368 1704 882 2040" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">（里山で話を聞く児童の様子）</p>

いう視点が大切だと思ったので、これからも日常の学習で取り上げていきたい。また、外来種の問題については、カブトムシやクワガタムシ、ブラックバスやカメ類など、子どもの生活に関係してくるので、夏休みまでに改めて学習した。学習を終えた子どもたちは、自主的に里山公園へ訪れたり、図書館で関連図書を調べたりしていた。校内でも、様々な生き物の話題になると、課題にあげられることもある。

○きれいな地球は誰がつくる？（3年生）

6月5日、何気なく捨てているゴミや下水に流している食用油が川や海を汚していることを、動画を通して学んだ。また、きれいな海岸にするために自らゴミ拾いをしている人々の活動を知ること、身の回りの環境を大切にするために自分たちができることを考えた。

子どもたちは、たくさんのゴミが処理されていること、家庭から流れてきた油が固まって川や海に流れていること、道や海岸に落ちているゴミが生き物に影響を及ぼしていることを知り、驚いた様子であった。現状を知った子どもたちは、「ポイ捨てをしない」「油やみそ汁などを流さない」「空き缶やペットボトルなどリサイクルできるものはリサイクルをする」「食べ残しをしない」「物を大切に使う」など自分たちにできることを考えることができた。また、燃えるゴミと燃えないゴミに分別をする意味についても理解することができた。

学習を終えて、海岸のゴミや川に流れている油などの画像を見ながら授業を進めたので、身の回りの環境について具体的に考えることができた。最初は、きれいな地球にすることについて他人事に思っていた児童も何人かいたが、自分たち一人ひとりが環境についてよく考えて行動しなければいけないということを感じることができた。

○亀山市総合環境センター見学（4年生）

6月7日、亀山市総合環境センターに行き、センターのしくみの見学と環境を守るための工夫について説明を聞いた。市内の集められたゴミがどのように処分されるのか話を聞き、分別の大切さや、資源ごみの有効活用などに関しても理解を深めることができた。



（ゴミセンターでの様子）

子どもたちは、説明を熱心に聞き、環境を守る3つのRなど、内容について理解することができた。

家庭でのゴミ調べを通して、自分たちが生活をするうえで、どのようなゴミを多く出しているのか知り、市内全体では莫大な量になるこ

とに気付くことができた。また、そのごみがどのように処理されていくのか興味を持つことができた。

学習を通して、ごみをなるべく出さないことや、再利用に努めるよう考える子どもが増えた。

○生ゴミを減らす調理法の工夫（5年生）

6月8日、生ゴミを減らす調理法の工夫について、実習を行った。生活の中で自分でもできる環境保全について、ごみを減らすことを前学年でも学習してきた。5年生になり、家庭科の学習で調理実習に取り組むことが増え、宿泊研修でも野外炊飯に取り組むことになった。そこでゴミを減らす工夫として、計画をしっかりと立て、必要な



（野外炊飯の様子）

分だけ材料を準備することや、調理段階で食材を無駄なく使うこと、食後の残飯が出ないように好き嫌いせずに食べることなど、食育にも関連させて学習を進めた。子どもたちは慣れない調理で時間はかかっていたが、ごみを減らすことをめあてに慎重に取り組む姿が見られた。また、残飯がないように全員が好き嫌いをせずにバランスよく食べることができた。ゴミを減らして環境を守ることをめあてにして調理をすることによって、子どもたちは、自分たちの生活と環境保全を結び付けて学習することができた。また、自宅でのお手伝いの際にも、ゴミがなるべく出ないような調理方法をしていきたいという子どもの声も多く挙がり、今後の取り組みにも期待できる。

分だけ材料を準備することや、調理段階で食材を無駄なく使うこと、食後の残飯が出ないように好き嫌いせずに食べることなど、食育にも関連させて学習を進めた。

子どもたちは慣れない調理で時間はかかっていたが、ごみを減らすことをめあてに慎重に取り組む姿が見られた。また、残飯が

○亀山公園周辺の清掃活動（6年生）

6月6日、学校から亀山公園までの道中や周辺の公園や施設、亀山公園内のごみ拾いを行った。子どもたちは、溝や広場の隅にまで目を配り、積極的にごみを拾っていた。不燃物やペットボトル、たばこの吸い殻、お菓子のごみなど様々な種類のごみを拾うことができた。



（ゴミ拾いをする児童の様子）

子どもたちは、普段遊んでいる公園にたくさんのごみが落ちていることに気付くことができた。6年生はフィールドワークなどで校外に出る機会が多いので、継続的にごみ拾いを続けていきたい。